



県民の森 植物紹介 ②⑧ —オニグルミ (クルミ科クルミ属) —

オニグルミは川岸や窪地など湿り気の多いところに生えます。高さは7～10m。その芽吹きは、不思議な形をしていて、まるでエイリアンが殻をつきやぶって出てきたようです。一度出会っていると忘れられません。雄花は緑のひものようにぶら下がり、雌花は真っ赤でピースをしたような形で直立します。風によって花粉が運ばれて、受粉すると毛が生えた緑の実ができます。実は落ちると皮が真っ黒になり、中からあの硬いクルミが出てきます。

材質は、加工するのに程よいやわらかさを持ち、しかも丈夫で肌触りもよいです。建築、家具、機械用材として用途は幅広く、適度な硬さと変形しにくい性質を持つことから、昔はどの国でも銃床として用いられたそうです。日本でも明治時代から昭和初期にかけて、軍需用として大量に伐採されたため、大きな樹はほとんどみられないそうです。

オニグルミは園内各所にありますが、七滝へ行く道路のみずばしょう園の向かい側にある樹は、道より低いところから生えているため、近くからよく観ることができます。

